

共同特報

二月七日

大阪府北河内之島  
三丁目上新地  
朝日新聞大阪本社

B29—二百七十分故來  
堺、大阪<sub>南</sub>、和歌山を焼爆

**正 帝國陸軍總司令部 大阪監視府總表** 七月廿七日時、南方空襲の敵B29約一百七十機は九日、平時より十日一時の前五種にわかれ、熊野灘紀伊半島、紀伊本道及び土佐深川附近より逐次分數便大し、主力を以て和歌山市堺市各一部を以て大阪市周辯及び高知市を中心として焼夷彈攻撃等を實施したる後紀伊半島より脱走せり、これがため和歌山市及び堺市に火災の發生を見たるも漸次鎮火しつゝあり  
二、十日四時までに判明せる戦果  
**擊墜** 七、**擊破** 三十五なるも尙更に増加の見込みなり

**壓伏せよ・小癪の終夜暴爆**

九月夜深更まで一千十機隊まで前後六時間に亘り敵がU25の敵機を打たない。利根山堺大阪南部高知、徳島の諸都市に來襲、無差別爆撃を加へ來つた。今向の來襲は爆弾、焼夷弾の混用、機雷投下など各攻撃手段を網羅したこと、多數波により廣範囲に疎開爆撃を行つたことなどはすでに経験すみであるが、一來襲時間が從来になく六時間の長きにわたり多分に神經戦的効果をねらつてゐること二、まず少數機で主目標より遠隔地に攻撃したり侵入経路を辿るなりしたり、脱去を見せかけて矢庭に別の多數機から成る主力をもつて主目標に向ひ集中殺到するなど、巧妙極まる陽動戦法に出たことが特徴と見られると、わたくしとしては手をかへ品をかへて執拗かつ猛烈にくり返さるべき暴撃に對し、眞に逞しい神経戦的な攻撃をもつておそれ、侮らず冷静沈着臨機奉公に邁進せねばならぬ

五社共同特報 真夜中の大空襲によって炎の街と化した7月10日、朝日・大阪・産業経済・毎日・同盟通信社の五社共同特報が、号外として配布された。一面には、中部軍管区司令部・大阪警備府発表文、裏面には、戦災者の心得などが記事となっている。  
(浜寺船尾町西 物種清さん保存)

(浜寺船尾町西 物種清さん保存)

## 戦災者の心得

防衛費を削減して節約されたのである。(二)銀行預金と金券を儲けた結果、金券は銀行預金の手帳をなくし、新たに通帳の交付を受ける。(三)郵便貯金の金庫を開けた結果を失ったのである(ひいては失火したなど)。また、官公署の金庫も同様に失火したのである。たゞ、難死者の避難先が他町の場合は戻り難いから、

救護隊續々出動す

十四日朝の堤方面空襲に對し大日本帝國は即ちに大本營の下押す緊急命令で、各小隊を派遣する事と定め、其の結果、被撃機數百機、ついで大阪市内南部各方面より相次いで爆弾投下された。その結果、近畿地方に延焼した火災は最も廣く度量に亘る事となつた。一方燃え広がる火災は、主として兵庫県の牧野町が最初で、其次而後、看護婦の手で火災が多層の建築物を捲へて急速に蔓延者に對し恐怖を煽り、放火、放火につながれた爆発者を殺害に對してはかねの軍隊に並んで、乾ばつその他の非常食糧の給與を行ひ、東からも大日本の炊出しが開始され、救援に奔走しなき活動を續けてゐるのである。